

Q22 自立活動の時間ではできますが、普段の生活で生かされていないことが多く、日常生活に生かせるようにすることが課題です。



特別支援学級担任

日常生活に生かされにくく、生活に生かせるような内容にすることが課題と感じています。

通級指導教室での学習が、在籍学級で、なかなか生かされません。



通級指導教室担当



特別支援学級担任

言葉だけでは、理解がでない子どもが多いので、行動を伴うのが難しいです。

A 時間における指導の中で、生活につながる工夫を設けることと、教育活動全体の中でも、時間における指導と密接に関連させて指導します。

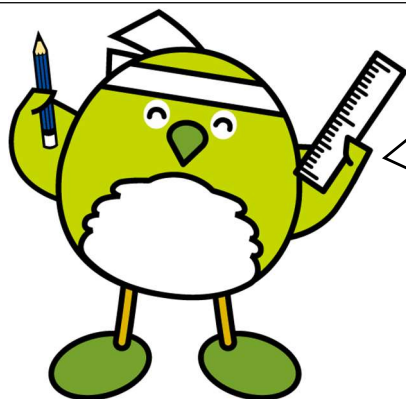
自立活動は、学習上又は生活上の困難を改善するための指導であるため、時間における指導の成果が日常生活の中に波及し、困難が改善されることが肝要です。

そのためには、**時間における指導の中で**、Q16やQ17で述べたように**教材や学習活動を日常生活と結びつけたものにし、日常生活に成果が活かされることを意図して指導**します。

また、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に「学校における自立活動の指導は、(中略)自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。」と示され、その解説(総則編)に「自立活動の時間における指導と各教科等における指導とが密接な関連を保つことが必要である。」「例えば、教科別の指導においては、(中略)、自立活動の時間における指導を参考にして配慮や手立てを行うことが考えられる。」と述べられています。

これらのことを踏まえると、**特別支援学級担任や通級指導教室担当はもちろんのこと、交流学級や在籍学級の担任や授業者等とも、自立活動での指導を参考にした配慮や手立てを共通理解し、各教科を始め教育活動全体の中で自立活動の指導を進めていく**必要があります。

具体的には、時間における指導の中で学習している補助具や支援具の使用目的や使用方法、困難が生じそうな場面や困難が生じた場面での支援方法等の共通理解が考えられます。



学校の教員以外にも、保護者や福祉機関(利用している児童生徒)等、その児童生徒を取り巻く支援者全員と、共通理解すると、児童生徒の生活全体に成果が活かされます。